岡崎市水循環総合計画（案）に対する意見と市の考え方（パブリックコメント）

1　パブリックコメント募集期間
　令和２年 12 月７日（月）　～　令和３年１月７日（木）
2　提出人数・意見件数・意見提出方法
　１名・３件・直接持ち込み
3　意見の概要とそれに対する市の考え方
　下記のとおり

意見（要旨）		市の考え方
第２編　岡崎市の水循環の現状　　第５章　岡崎市の水循環の現状		
1	5.5 水辺環境 川やため池などで魚が少なくなっている気がする。計画の中でフナやニゴイの記載があるが、ため池でフナは見えたことがないし、コイも昔のように見られない。 外来種のブルーギルやブラックバスについても少なくなったように感じる。 もっと水や魚に関わる研究を進めて改めるところは改めて言ってほしい。	市内に生息する動植物については定期的に実態調査を行っており、現状でもフナ等が生息していることは確認できております。また、ブルーギルやブラックバスは生態系の保全のため駆除の取り組みを実施しているところです。 水や魚に関わる研究については、引き続き実態調査を継続するとともに、生き物が豊かな川が育めるよう取り組みを継続してまいります。
第３編　豊かな水循環の実現のための施策の方向性　第７章　みんなで取り組む対策と役割分担		
2	7.1「雨を受け止め、時間をかけて川へ流し、上手に水を使う」ための対策 額田地区を含め、花崗岩地帯においては皆伐施業はやめて林地の更新は択伐方式にすべきである。 現状は材価低迷のため伐採が進んでいない、先進的な林業機械などを導入し効率的に施業すべきである。 林業や農業について広い知識を有し、実践的な活動が実施できる人材の育成を望みます。またそうした人材の育成のための補助金も整備すべきである。 人口が減っていく中で農林業の人員の確保と技術の継承が必要と思う。また、100 年の人工林施業と岡崎市は行っているので、100 年経った巨木でも伐採できる伐採技術の育成も必要ではないか。	市民の皆様の森林に対する意識・価値観が多様なものとなっている現在、いずれの地域においても森林の持つ多面的機能の発揮の観点から、地形・土壌等の自然条件や森林所有者の意向を踏まえた協議の下、林地の更新などについて間伐・択伐・皆伐等の整備方法を検討し、森林整備を図っていきます。 森林づくりは 100 年の計であり、50 年、100 年先を見据え、持続可能な循環型の都市づくりの最も重要なピースのひとつとして、国・県などと連携を図り、また、先進地の事例を検証するなどし、最新の ICT 技術等や必要な補助の導入、新規及び既存の林業従事者に対する育成・支援を、学識経験者や森林組合等林業事業体、森林所有者と十分に協議・検討を行い、対応していきます。

3	7.2「汚れのもとを減らし、清らかな流れを保つ」ための対策 　河川のコンクリート化や除草剤の散布は触れていないが大きな問題と考えています。集落排水の浄化に塩素などを使っているならば今後山間部においてはバイオトイレの設置を進めていく必要を感じます。	河川のコンクリート化への対策については84ページ「多自然川づくり」として記載するとおり、治水上の安全性を確保しながら可能な限り生きものが住みやすい水辺となるよう河川整備を進めていきます。 　農薬等の河川へ流入については 79 ページ「環境に配慮した農業の推進」で記載するとおり、過剰な農薬利用によって水質の悪化を起こさないよう、環境配慮型の農業を推進してまいります。また、本市では定期的に河川の水質調査を実施し、農薬の流入がないかを監視しております。 　山間地域の集落排水については 76 ページ「汚濁負荷量の削減」で記載するとおりです。御指摘のバイオトイレは、汲み取りトイレの一種であり家庭でトイレ以外から排出される雑排水を処理することができないため、集落の排水処理については合併処理浄化槽を用いた方が環境負荷は小さくなります。なお、公共用水域から隔絶された地域（山小屋や自然公園にあるトイレ）においては、悪臭が少ないバイオトイレが奨励されます。 　また、浄化槽に使用される塩素は、大腸菌等の殺菌のためになくてはならないものであり、危険性もありません。今後も適正な維持管理がなされるよう管理者に指導啓発を行っていきます。